

《市の有形文化財として4件を指定》

# 今も受け継がれる醤油醸造家の 窮民救済の精神と社会事業活動の 原点を伝える貴重な資料

～「天保の飢饉」における救済活動と犠牲者供養～

市内に現存する「天保の飢饉」関連資料について、被災の様相、救済の取組、犠牲者の供養が書かれた古文書や供養塔、飢饉の教訓や功績を後世へ伝えるために建立された顕彰碑として、「長命寺過去帳及び長命寺過去帳写」2点、「長命寺歉年賑給中死亡五百有余人墓」1基、「安心寺歉年賑給中死亡五百有余人墓」1基、「高梨氏救苗記」1基の4件を10月2日付で市有形文化財として指定した。いずれも、飢饉の凄惨な状況を伝えるとともに、醤油醸造家による救済活動から、犠牲者の供養、功績の伝承に至る一連の行為を現代に伝える貴重な資料となっている。

## ◆指定した文化財

①長命寺過去帳及び長命寺過去帳写 2点 ※非公開

【所在地】 野田市上花輪 1358 番地

【所有者等住所】 宗教法人 真宗大谷派長命寺 代表役員 井上 雅人  
野田市上花輪 1358 番地  
04-7122-3463

②長命寺歉年賑給中死亡五百有余人墓 1基

【所在地】 野田市上花輪 1361 番地

【所有者等住所】 宗教法人 真宗大谷派長命寺 代表役員 井上 雅人  
野田市上花輪 1358 番地  
04-7122-3463

③安心寺歉年賑給中死亡五百有余人墓 1基

【所在地】 野田市野田 41 番地

【所有者等住所】 宗教法人 東正寺 代表役員 鈴木 亮仁  
野田市野田 29 番地  
04-7122-2087

④高梨氏救苗記 1基

【所在地】 野田市上花輪 507 番地

【所有者等住所】 公益財団法人高梨本家 上花輪歴史館 館長 高梨兵左衛門  
野田市上花輪 507 番地

04-7122-2070（月・火曜日休館、8月・12月中旬～2月長期休館）

#### ◆概要

天保の飢饉は、天保4（1833）年から9（1838）年にかけて発生した災害で、江戸の三大飢饉として「享保」「天明」と並び称されている。天候不順による凶作と著しい物価の上昇によって食糧不足を招き、飢餓や免疫力の低下で疫病を蔓延させ、特に東北地方を中心に約10万人の犠牲者を出したと伝わる。

野田地域では、天保4年に上花輪村名主の高梨兵左衛門家による救済活動が行われたが、天保7（1836）年には周辺村落で打ちこわし（暴動）が計画されたほか、路傍の草を食べる者や作物の盗難が発生するなど、食糧不足は再び深刻化した。

当時の野田には大きな経済力を持つ醤油醸造家が存在しており、家憲（かけん）などに基づく慈善事業家としての精神が継承されていた。中でも、茂木房五郎は、茂木七左衛門、茂木佐平治、茂木七郎右衛門、高梨兵左衛門らに御救いを持ち掛け、天保の飢饉における御救いの先駆けとなり、家計が傾いても活動を断行した。

高梨家では天明の飢饉時に御救いを完遂できなかった経験から、窮民救済の精神と家財備蓄の心得が代々強く受け継がれていた。天保の飢饉では、「御救い小屋」を設けて飢餓者への炊き出しや病人の治療を行ったほか、上花輪村と代官が同じ那須（現・栃木県）や南海八島（現・伊豆諸島）の救済活動も実施している。

こうした行為は周辺地域にも伝わり、3,000人以上の人々が食糧を求めて野田を目指したが、飢えや病により死亡者は500人を超えたとされている。このうち、身寄りのない人々は長命寺や安心坊（現・安心寺）に埋葬され、天保9年には供養として「歉年賑給中死亡五百有余人墓」を建立するとともに、死亡者の戒名や出身地などが記載された過去帳を作成し弔ったとされている。明治19（1886）年には、天保の飢饉犠牲者の50回忌を執り行い、長命寺の台座を新調し、過去帳を再作成した。

天保の飢饉の関連文化財は、飢饉の凄惨な状況を伝えるとともに、醤油醸造家による救済活動から、犠牲者の供養、功績の伝承に至る一連の行為を現代に伝える資料となっている。

大きな経済力をもつ醤油醸造家たちは、祖先から継承された窮民救済の精神をもとに、地域を越えた救済活動を実施している。この精神は近代以降も継承され、災害時の救済活動のみならず、学校や公園などの建設、水道事業などのインフラ整備に加え、社会教育活動などへの援助も積極的に行い、現代野田の都市及び社会形成に大きく寄与しているなど、災害救済活動の歴史に加え醤油醸造家の社会事業活動の原点を明らかにしている点も評価できるものである。

問合せ＝生涯学習課・直通 04-7199-8595

代表 04-7125-1111（内線 2651）

野 田 市